

来町100周年

宮沢賢治と保阪嘉内

— 100年前の行程を振り返る —



資料提供 林風舎

1916（大正5）年9月、当時二十歳の宮沢賢治が恒例となっていた秩父地方の地質に関する調査・見学旅行に教授・学友とともにここ寄居町を訪れていました。
賢治が訪れた翌年、一年後輩の保阪嘉内が同地方を訪れた際の歌稿ノートにより、当時の行程をたどることができます。



波久礼石切場跡（波久礼駅付近）



末野石切場跡（玉淀ダム下流）



長瀬町の歌碑（県立自然の博物館前）



荒川河畔の歌碑（玉淀河原下流）

宮 沢賢治は、盛岡高等農林学校の2年生だった1916（大正5）年の9月、地質見学旅行で寄居町を含む秩父地方を訪れ、「つくづく『粹なまやうの博多帯』荒川ぎしの片岩のいろ」という短歌を詠んだ。みごとに縞模様を呈する結晶片岩の美しさに感動した賢治が、博多帯になぞらえて表現したものとして大変有名であり、平成5年9月には寄居町に、平成15年9月には長瀬町に、それぞれ、同短歌の刻まれた歌碑が建てられたほどである。

この時の賢治らの足跡を記した日記などは残っていないが、幸い、同校の一年後輩で賢治の「心の友」とも評される保阪嘉内は、翌年7月の秩父地質見学旅行の時に、296首の短歌を「秩父始原層 其他」と題するノートに書き残した。

この歌稿ノートに記された短歌のなかには、岩石・鉱物・地質現象などの学術用語が頻繁に登場し、歌は、旅行の日程にしたがって順序よく記してある。このため、このノートは、自然を題材にした文学作品であると同時に、岩石学・鉱物学・地質学の装いをまとった自然科学的な紀行文ともいえる内容を備え、当時の秩父地質巡検の行程を知ることができるものである。

町では、賢治来町100周年記念事業として、本間岳史氏による講演「宮沢賢治の秩父地質巡検」を開催します。本間氏は、保阪嘉内の歌稿ノートに記された短歌の中から、岩石・鉱物・地質現象等が登場する154首を抽出し、それらの事象を学術的な視点から分類・整理して産出地などについて考察し、嘉内らの足跡をたどるなどの研究をまとめられています。

賢治が寄居を訪れて100年。そして、生誕120年。ぜひこの節目の年に、宮沢賢治と寄居について考えてみませんか。



宮沢賢治（右）と保阪嘉内（左）の歌碑（小鹿野町）

寄居来町100周年記念講演



資料提供 林風舎

**宮沢賢治の
秩父地質巡検**

講師 本間岳史氏

9月4日（日）午後2時

場所 寄居町立図書館2階 視聴覚室
定員 50人

費用 無料

申し込み・問い合わせ 寄居町立図書館
（☎580・1888）へ。

